

施策の評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計画	目標	03	いのちと暮らしを守るまちづくり	
		基本政策	05	いざという時の備えの強化	管理コード 030515
		施策	15	災害に強いまちづくりの推進	本冊ページ 61
	関連個別計画	津市地域防災計画、津市立地適正化計画、津市耐震改修促進計画、第2次津市水道事業基本計画、津市下水道事業基本計画、津市雨水管理総合計画、下水道総合地震対策計画			
担当部局		危機管理部、市民部、健康福祉部、農林水産部、都市計画部、建設部、上下水道事業局			
施策の内容(番号)		044 ~ 049			

2 「施策の内容」の総合評価と今後の方向性				
番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価		担当課
		選択区分	今後の方向性 選択区分	
044	国が管理する雲出川については、雲出川水系全体の整備状況を勘案し、事業進捗に遅れが出ることなく、地域間のバランスの取れた治水安全度の向上が図られるよう国に強く働きかけます。	B	①	事業調整室
045	県管理河川については、計画的な整備・改修を進めることに加え、しゅんせつ等の適切な維持管理を行うよう三重県に対し強く働きかけるとともに、本市が管理する準用河川や調整池などについても、修繕等の適切な維持管理、下流河川の排水能力や地域特性に応じた取組を行うことで、治水対策を推進します。	A	①	河川排水推進室/南北工事事務所/事業調整室
046	海岸堤防については、発生が予想される南海トラフ地震や台風時の高潮から市民のいのちと財産を守るため、栗真町屋工区や阿漕浦・御殿場工区の早期の整備完了を促進し、また、津北部地域における海岸堤防については、漁港堤防と一体的に整備を促進するよう国・県の関係機関に対して強く働きかけます。	B	①	事業調整室
047	土砂流出や急傾斜地の崩壊による災害から市民のいのちと財産を守るため、砂防・急傾斜地崩壊対策の促進を図るとともに、土砂災害警戒区域に指定された区域内での災害情報の伝達や素早い避難が可能となる警戒・避難体制の整備を進めます。	A	①	防災室/開発指導室/河川排水推進室
048	道路や橋りょう、排水機場、水道・下水道施設などのインフラの整備や耐震化を推進します。	B	①	地域連携課/林業振興室/建築指導課/建設整備課/南北工事事務所/水道工務課/下水道工務課/水道施設課/下水道施設課
049	災害リスクに対応した防災上安全性の高い区域へ都市機能や居住の誘導を図る土地利用の促進や津波浸水が想定される区域における民間施設や公共施設を活用した津波避難ビル・津波避難協力ビルの確保など、災害に強いまちづくりを進めます。	A	①	防災室/地域医療推進室/都市政策課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満
 ※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3 「施策」の総合評価			
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	区分	選択区分	総評(施策の進捗状況や効果等を端的に記載)
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A	A

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	A	A					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	03	いのちと暮らしを守るまちづくり			
		基本政策	05	いざという時の備えの強化		管理コード	030515044
		施策	15	災害に強いまちづくりの推進		本冊ページ	61
	関連個別計画						
担当部局		建設部					
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		044	国が管理する雲出川については、雲出川水系全体の整備状況を勘案し、事業進捗に遅れが出ることなく、地域間のバランスの取れた治水安全度の向上が図られるよう国に強く働きかけます。				

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)	
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	○ 実施評価 事業評価		
	担当課		何	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	決算額 (千円)	今後の方向性	
044-1	三重県雲出川治水事業促進期成同盟会 事業調整室	一級河川雲出川河川改修事業の促進及び事業費の確保並びに雲出川の直轄事業の継続について、関係機関への要望活動を実施する	効	一級河川雲出川における治水事業の促進	◆ 時宜を捉えて適宜要望活動を実施		○	国によって、河道掘削や堤防整備などが行われた。引き続き予算確保に向けた要望活動を行う。
			誰	雲出川流域の住民	◇ 国事業の進捗		○	
			何	安心・安全な生活を送る	296 (千円)	現状維持		
044-2			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
044-3			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
044-4			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
044-5			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			

施策の内容評価シート(令和4年度分)

044-6	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
044-7	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
044-8	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
044-9	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
044-10	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	B
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	B	B					
今後の方向性	①	①	①	①	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計画	目標	03	いのちと暮らしを守るまちづくり	
		基本政策	05	いざという時の備えの強化	管理コード 030515045
		施策	15	災害に強いまちづくりの推進	本冊ページ 61
関連個別計画					
担当部局		建設部			
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		045	県管理河川については、計画的な整備・改修を進めることに加え、しゅんせつ等の適切な維持管理を行うよう三重県に対し強く働きかけるとともに、本市が管理する準用河川や調整池などについても、修繕等の適切な維持管理、下流河川の排水能力や地域特性に応じた取組を行うことで、治水対策を推進します。		

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	○ 実施評価	
担当課		何	何のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	○ 今後の方向性		
045-1	緊急浚渫対策事業	緊急浚渫対策事業債を活用した、浸水対策のための河川の浚渫工事	効	浸水対策の促進	◆ 6河川の浚渫	○	河川の浚渫を行ったことで浸水対策が図られ、安心・安全な暮らしを確保することができたため「◎」とした。今後も継続して実施していく。
	誰		河川流域の住民	◇ 河道断面の確保	◎		
河川排水推進室		何	安心・安全な暮らしを送る	34,236 (千円)	現状維持		
045-2	雨水対策事業(河川等改修)	緊急自然災害防止対策事業債を活用した、河川等の改修工事	効	浸水対策の促進	◆ 6河川の改修	○	河川等の改修を行ったことで浸水対策が図られ、安心・安全な暮らしを確保することができたため「◎」とした。今後も継続して実施していく。
	誰		河川流域の住民	◇ 河川管理施設の整備	◎		
河川排水推進室		何	安心・安全な暮らしを送る	105,065 (千円)	現状維持		
045-3	河川等維持事業	準用河川等のしゅんせつ、除草、修繕等の維持管理	効	適正な河川施設の維持管理を行う	◆ 施設の適正な維持管理	◎	河川の土砂しゅんせつ等を行うことにより、降雨時における河川の排水能力を高め、河川の氾濫等による浸水被害の低減を図ることができた。引き続き、河川の維持保全等に努め、緊急性の高い箇所より順次進めていく。
	誰		市内外の人々が	◇ 地域住民の安心感等	◎		
南北工事事務所		何	地域特性に応じた河川施設の維持管理を行う	123,977 (千円)	現状維持		
045-4	要望活動	県管理河川の改修事業の推進、計画的なしゅんせつを、県政要望などにより要望活動を実施	効	県管理河川における治水事業の促進	◆ 時宜を捉えて適宜要望活動を実施	○	県によって、河道掘削や浚渫などが行われた。引き続き予算確保に向けた要望活動を行う。
	誰		県管理河川流域の住民	◇ 県事業の進捗	○		
事業調整室		何	安心・安全な生活を送る	0 (千円)	現状維持		
045-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

施策の内容評価シート(令和4年度分)

045-6	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
045-7	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
045-8	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
045-9	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
045-10	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	A
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	B	A	A					
今後の方向性	①	①	①	①	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計画	目標	03	いのちと暮らしを守るまちづくり	
		基本政策	05	いざという時の備えの強化	管理コード 030515046
		施策	15	災害に強いまちづくりの推進	本冊ページ 61
	関連個別計画				
担当部局		農林水産部、建設部			
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		046	海岸堤防については、発生が予想される南海トラフ地震や台風時の高潮から市民のいのちと財産を守るため、栗真町屋工区や阿漕浦・御殿場工区の早期の整備完了を促進し、また、津北部地域における海岸堤防については、漁港堤防と一体的に整備を促進するよう国・県の関係機関に対して強く働きかけます。		

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)							
番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	○ 実施評価	
担当課			何	何のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	○ 事業評価	
			何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の方向性	
046-1	要望活動	津北部地域のうち県土整備部所管の海岸堤防の早期整備を、県政要望などにより要望活動を実施	効	津北部地域海岸における海岸事業の促進	◆	時宜を捉えて適宜要望活動を実施	○
			誰	津北部地域海岸沿岸住民	◇	県事業の進捗	○
	事業調整室		何	安心・安全な生活を送る	0 (千円)	現状維持	県によって、工事に向けた調査、測量や堤防工事が行われた。引き続き予算確保に向けた要望活動を行う。
046-2		効		◆			
		誰		◇			
		何		(千円)			
046-3		効		◆			
		誰		◇			
		何		(千円)			
046-4		効		◆			
		誰		◇			
		何		(千円)			
046-5		効		◆			
		誰		◇			
		何		(千円)			

施策の内容評価シート(令和4年度分)

046-6	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
046-7	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
046-8	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
046-9	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
046-10	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)
 ※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
 ※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	B
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
 ※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	B	B					
今後の方向性	①	①	①	①	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計画	目標	03	いのちと暮らしを守るまちづくり	
		基本政策	05	いざという時の備えの強化	管理コード 030515047
		施策	15	災害に強いまちづくりの推進	本冊ページ 61
	関連個別計画	津市地域防災計画			
	担当部局	危機管理部、都市計画部、農林水産部、建設部			
	施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果	047	土砂流出や急傾斜地の崩壊による災害から市民のいのちと財産を守るため、砂防・急傾斜地崩壊対策の促進を図るとともに、土砂災害警戒区域に指定された区域内での災害情報の伝達や素早い避難が可能となる警戒・避難体制の整備を進めます。		

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	◎ 実施評価	
	担当課		何	誰	◇ 事業評価の主な視点	◎ 今後の方向性	
047-1	土砂災害ハザードマップ作成事業	土砂災害警戒区域の啓発としての土砂災害ハザードマップの作成	効	地域住民の避難開始の基準づくりや避難方法の確立	◆ 土砂災害計画区域の情報伝達	◎	土砂災害ハザードマップを活用し住民等に危険度の周知を行うとともに、地区防災計画の策定や避難訓練に対する支援を行うほか、土砂災害避難施設等の更なる確保に努めます。また、住民に対して、大雨警報(土砂災害)が発表された場合、あらかじめ指定した土砂災害避難施設等に避難するよう啓発します。
	誰		市、地域住民	◇ 住民への周知	○		
	防災室		何	災害時の迅速かつ安全に避難するため	257 (千円)	拡充・充実	
047-2	宅地耐震化推進事業	大規模盛土造成地調査	効	市内の大規模盛土造成地により正確な把握ができる	◆ 市内の大規模盛土造成地カルテの検証	○	市内の盛土造成地箇所の周知ができた。より効果的な事業となるよう、令和5年度から安全性の把握等、盛土造成地箇所の検証等を行っていく。
	誰		対象地域の住民	◇ 現状の把握	○		
	開発指導室		何	市民の生命、財産を守るため	0 (千円)	現状維持	
047-3	土砂災害防止事業	土砂災害防止法に伴う対策事業の要望	効	砂防・急傾斜地の崩壊防止対策	◆ 2地区の対策	○	土砂災害防止法に伴う対策事業の要望を行ったことで、急傾斜地崩壊危険箇所内の住民の安心・安全な暮らし確保することができたため「◎」とした。今後も継続して要望を実施していく。
	誰		急傾斜地崩壊危険箇所内の住民	◇ 急傾斜地崩壊防止施設の整備	◎		
	河川排水推進室		何	安心・安全な暮らしを送る	7,280 (千円)	現状維持	
047-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
047-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

施策の内容評価シート(令和4年度分)

047-6	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
047-7	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
047-8	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
047-9	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	
047-10	効	◆	
	誰	◇	
	何	(千円)	

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	A
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	B	A					
今後の方向性	①	①	①	①	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け				
政策体系	総合計画	目標	03	いのちと暮らしを守るまちづくり
		基本政策	05	いざという時の備えの強化
		施策	15	災害に強いまちづくりの推進
	関連個別計画	津市耐震改修促進計画(令和3年度～令和7年度)、第2次津市水道事業基本計画(平成30年度～令和9年度)、津市下水道事業基本計画(平成30年度～令和9年度)、津市雨水管理総合計画(令和元年度～令和10年度)、下水道総合地震対策計画(令和元年度～令和5年度)		
	担当部局	市民部、農林水産部、都市計画部、建設部、上下水道事業局		
	施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果	048	道路や橋りょう、排水機場、水道・下水道施設などのインフラの整備や耐震化を推進します。	
			管理コード	030515048
			本冊ページ	62

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	○ 実施評価	
	担当課		何	誰	◇ 事業評価の主な視点	○ 事業評価	
048-1	地域インフラ維持事業	道路、河川、公園等の地域インフラの維持修繕に関し総合支所長の権限のもと、フレキシブルに対応する事業	地域から寄せられるインフラに関する要望に対して、総合支所長の権限で速やかに優先順位を決めて柔軟に対応する	市民が	◆ 地域インフラの維持修繕について、単価契約による委託業務及び施設修繕において即時対応を行う	○	自然災害を含む突発的に発生するインフラの被害について、早期の対応が図れた。今後も、必要となる対応を迅速に行っていききたい。
	地域連携課	何	安全に道路等のインフラを使用することができる	161,263 (千円)	◇ 対応件数	○	
048-2	地域インフラ補修事業	身近な地域の課題や要望の早期解決を図るため、地域への原材料の支給や、総合支所職員による簡易な補修、修繕等の実施	地域から寄せられるインフラに関する要望に対して、総合支所長の権限で速やかに優先順位を決めて柔軟に対応する	市民が	◆ 迅速、的確かつ柔軟に対応するため、総合支所職員による公共施設の簡易な補修、修繕及び地域への原材料の支給を行う	○	自然災害を含む突発的に発生するインフラの被害について、早期の対応が図れた。今後も、必要となる対応を迅速に行っていききたい。
	地域連携課	何	安全に道路等のインフラを使用することができる	23,278 (千円)	◇ 対応件数	○	
048-3	林道中畑線開設工事	林道中畑線の開設工事	森林所有者等が林道を利用することができる	森林所有者等	◆ 完成延長150m	○	R4の完成延長は20mであるが、施工延長は伸びているため、概ね計画どおりに進んでいる。また、R4においても林道中畑線を使用して森林整備を行ったため、事業の成果が表れていると考えられる。県予算等の兼ね合いもあるため、工事の規模は現状維持とする。
	林業振興室		何	森林施業を効率的に行うことができ、森林整備が促進される	27,445 (千円)	◇ 周辺の森林の整備状況	
048-4	避難路沿道建築物耐震診断補助事業	第一次緊急輸送道路沿道に建つ旧耐震建築物の耐震診断費用に対する補助	旧耐震基準建築物の耐震診断の受診を検討する	同建築物の所有者	◆ 補助を行う	×	実績がなかったため「×」とした。法により、所有者に対して、耐震診断の実施及び所管行政庁への結果の報告が義務付けられており、繰り返し診断等の実施を指導していく。
	建築指導課		何	耐震診断を受診する	◇ 耐震診断の受診の有無	×	
					0 (千円)	拡充・充実	

施策の内容評価シート(令和4年度分)

048-5	避難路沿道建築物耐震補強計画作成補助事業	第一次緊急輸送道路沿道に建つ旧耐震建築物の耐震補強計画作成費用に対する補助	効	同建築物の耐震補強計画の作成を検討する	◆ 補助を行う	×	実績がなかったため「×」とした。避難路沿道建築物について、耐震化に取り組むこととし、耐震補強計画等の実施に必要な費用を負担する。
	誰		同建築物の所有者	◇ 補強計画の作成の有無	×		
	建築指導課		何	耐震補強計画を作成する	0 (千円)	拡充・充実	
048-6	舗装維持管理強化事業	国の防災・安全交付金を活用した舗装維持管理計画に基づく路線の予防的かつ計画的な修繕の実施	効	舗装のひび割れ・わだち掘れを修繕し安全性や信頼性を確保した道路サービスが提供できる	◆ 4路線の舗装修繕	○	過年度より舗装修繕を継続的に実施している。令和3年度の補正予算により、重点的に実施できました。令和4年度以降も引き続き補正予算対応を考慮しながら進めていく。
	誰		道路利用者	◇ 舗装修繕の進捗率	○		
	建設整備課		何	舗装の表面を健全な状態にすることで、安全な走行空間を確保する	185,939 (千円)	拡充・充実	
048-7	道路構造物修繕(更新)事業	道路ストックの総点検により、道路施設の異常や損傷を早期に発見し、計画的な修繕を実施	効	損傷した道路施設(法面・道路照明灯)を修繕し安全性や信頼性を確保した道路サービスが提供できる	◆ 1路線の法面修繕	○	令和4年度から1路線の法面修繕の設計業務に着手しました。今後、設計の成果をもとに修繕を実施していく。
	誰		道路利用者	◇ 法面修繕の進捗率	△		
	建設整備課		何	損傷した道路施設を健全な状態にすることで、安全な走行空間を確保する	16,382 (千円)	現状維持	
048-8	津興橋大規模更新事業	老朽化した津興橋の架替工事	効	損傷の激しい橋梁を架替えることで安全性が確保できる	◆ 令和8年度の完成	○	平成27年度に架け替え方針を決定し、事業を進めている。令和4年度は旧橋の橋脚6基の撤去が完了し、新橋脚1基の設置と旧橋台の撤去にも着手した。令和8年度の完成を目指し整備を進めていく。
	誰		道路利用者	◇ 事業の進捗率	△		
	建設整備課		何	損傷した橋梁を健全な状態にすることで、安全な走行空間を確保する	469,255 (千円)	現状維持	
048-9	橋りょう長寿命化修繕事業	国の道路メンテナンス事業補助金を活用し、橋りょう長寿命化修繕計画に基づく点検及び工事の実施	効	定期的な点検により橋梁の損傷状況が把握でき、損傷部位の修繕により安全性や信頼性が確保できる	◆ 長寿命化修繕計画に基づく事業の実施	○	平成26年度以降、全ての橋梁に対し5年に1度の点検を実施している。今後も継続的に点検・修繕を実施していく。
	誰		道路利用者	◇ 事業の進捗率	○		
	建設整備課		何	損傷した橋梁を健全な状態にすることで、安全な走行空間を確保する	182,223 (千円)	現状維持	
048-10	道路新設改良事業	幹線道路及び生活道路の新設改良工事等	効	道路整備の推進により市域における防災・交通安全・交通円滑化・交流拡大・まちづくりに寄与できる	◆ 8路線の道路改良工事	○	令和4年度に高茶屋小森町第24号線の事業が完了しました。令和5年度以降、新たに3路線に着手していく。
	誰		道路利用者	◇ 事業の進捗率	○		
	建設整備課		何	安心・安全な道路空間を確保でき、交流・活力の創出、拠点集約型まちづくりの基礎づくりができる	720,453 (千円)	拡充・充実	
048-11	上浜町大谷町第1号線外1路線道路改良事業	大谷踏切の拡幅及び近鉄架道橋拡幅工事	効	狭い踏切道および前後の道路や架道橋の拡幅により、安心・安全な移動空間を確保できる	◆ 令和6年度の完成	○	令和3年度から近鉄と協定を締結し、踏切西側の架道橋工事着手し引き続き工事を行った。令和6年度の完成を目指し整備を進めていく。
	誰		道路利用者	◇ 事業の進捗率	△		
	建設整備課		何	歩行者と自動車の錯綜による事故リスクや交通渋滞を低減することができる	584,442 (千円)	現状維持	
048-12	道路等維持修繕事業	舗装、側溝等道路施設の維持修繕	効	適正な道路施設の維持管理を行う	◆ 道路施設の維持管理	○	生活基盤である道路施設の維持保全を図ることができた。引き続き、安全で快適な生活環境を保全するため、維持管理を行って行く。
	誰		市内外の人々が	◇ 維持修繕の進捗率	○		
	南北工事事務所		何	生活基盤である道路施設の維持管理を行う	20,342 (千円)	現状維持	

施策の内容評価シート(令和4年度分)

048-13	環境整備事業	公共下水道事業完了後の道路施設の整備等	効	公共下水道事業完了後の道路施設の整備等を行う	◆ 道路施設の整備等	○	生活基盤である道路施設の維持保全を図ることができた。引き続き、安全で快適な生活環境を保全するため、地元関係者と協議しながら、緊急性の高い箇所から順次改修を進めていく。
	誰		市内外の人々が	◇ 維持管理の進捗率	○		
	南北工事事務所		何	事業完了後の道路施設の維持管理を行う	114,696 (千円)	現状維持	
048-14	橋りょう維持事業	橋りょうの修繕工事	効	橋りょうの安全性を確保するため修繕を行う	◆ 橋りょうの修繕	○	生活基盤である道路施設の維持保全を図ることができた。引き続き、安全で快適な生活環境を保全するため、緊急性の高い箇所から順次改修を進めていく。
	誰		市内外の人々が	◇ 維持管理の進捗率	○		
	南北工事事務所		何	橋りょうの安全性、信頼性を確保するため維持管理を行う	1,224 (千円)	現状維持	
048-15	建設改良事業	老朽管更新、管網整備工事	効	持続する水道を目的とし、水道利用者に安全で良質な水道水を安定供給し続ける	◆ 計画に基づき実施	○	基幹管路の管路更新に限り計画を下回っているものの、管路全体では計画を上回る管路更新が行われている。優先順位を検討し、計画的に管路更新を行っていく。
	誰		水道利用者が	◇ 利用者の意見	○		
	水道工務課		何	安全・安心でおいしい水の安定供給が受けられる	2,370,065 (千円)	現状維持	
048-16	汚水管渠維持管理事業	不明水対策等管更生工事・公共まです設置工事	効	下水道管等に流入する不明水によって起こる汚水の排水不良を防ぐ	◆ 不明水対策計画に基づき実施 4件	◎	計画していた工事すべて完成したことから「◎」とした。引き続き不明水対策を実施していく。
	誰		公共下水道使用者	◇ 不明水対策等管更生工事件数	◎		
	下水道工務課		何	安定した公共下水道の使用	129,023 (千円)	現状維持	
048-17	汚水管渠建設事業	汚水幹線等築造工事等	効	汲み取り便所の水洗化及び家庭用雑排水等の公共下水道への接続	◆ 津市下水道事業基本計画に基づき実施	○	令和4年度末における下水道処理人口普及率は54.4%であり、未普及対策を進める必要がある。特に平成30年4月に供用開始となった志登茂川処理区における汚水整備を中心に事業推進を図る必要がある。
	誰		公共下水道使用者、市内外の人々	◇ 処理区域面積	○		
	下水道工務課		何	生活環境及び公衆衛生の改善と公共用水域の水質保全	2,287,557 (千円)	現状維持	
048-18	雨水管渠建設事業	雨水幹線築造工事等	効	降雨時など、市街地における内水の速やかな排除	◆ 雨水管理総合計画に基づき実施	○	計画区域の整備を進められており、ある程度の効果が認められるものとして「○」とした。
	誰		市内外の人々が	◇ 整備面積	○		
	下水道工務課		何	内水氾濫の被害から人命・資産等が守られる	1,344,130 (千円)	現状維持	
048-19	水道施設耐震化事業	災害対策事業として、浄化施設耐震補強工事、緊急遮断弁設置工事及び耐震二次診断業務委託等	効	災害に強い施設整備	◆ 第2次津市水道事業基本計画	○	今後の排水切替えに伴う施設統廃合も考慮し、耐震診断において補強が必要と判断された施設は、基幹施設を優先して耐震化を進めていく。
	誰		使用者が	◇ 第2次津市水道事業基本計画による計画的な実施	○		
	水道施設課		何	安心安全な生活が維持できる	10,300 (千円)	現状維持	
048-20	雨水対策事業(排水機場等改修)	緊急自然災害防止対策事業債を活用した、浸水対策のための排水機場等の改修工事	効	安心安全なまちづくりの推進を図る	◆ 緊急自然災害防止対策事業債	○	今年度は事業基準の対象外であるため、国庫補助を活用して改修工事実施、今後基準対象の施設については改修工事を行う。
	誰		市民の	◇ 緊急自然災害防止対策事業債による計画的な実施	○		
	下水道施設課		何	浸水対策のため	0 (千円)	拡充・充実	

施策の内容評価シート(令和4年度分)

048-21	建設改良事業	浄化施設整備工事、排水施設整備工事等	効	安心安全なまちづくりの推進を図る	◆	下水道総合地震対策計画	○	総合地震計画に基づき耐震補強工事を進める。
	誰		使用者が	◇	下水道総合地震対策計画による計画的な実施	○		
	何		安心安全な生活が維持できる	0 (千円)	拡充・充実			
048-22			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
048-23			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
048-24			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
048-25			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)
 ※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
 ※今後の方向性…(さるなる) 拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	B
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
 ※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	B	B					
今後の方向性	②	②	②	①	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計画	目標	03	いのちと暮らしを守るまちづくり	
		基本政策	05	いざという時の備えの強化	管理コード 030515049
		施策	15	災害に強いまちづくりの推進	本冊ページ 62
関連個別計画		津市地域防災計画、津市立地適正化計画(平成30年度～令和9年度)			
担当部局		危機管理部、健康福祉部、都市計画部			
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		049	災害リスクに対応した防災上安全性の高い区域へ都市機能や居住の誘導を図る土地利用の促進や津波浸水が想定される区域における民間施設や公共施設を活用した津波避難ビル・津波避難協力ビルの確保など、災害に強いまちづくりを進めます。		

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	○ 実施評価	
担当課		何	何のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	○ 今後の方向性		
049-1	津波避難ビル・津波避難協力ビル指定事業	津波から避難する際に、逃げ遅れた人など、どうしても遠くまで避難できない人に少しでも安全な高い場所を確保するためのビル等の指定	効	津波から緊急的に一時避難することが可能になる	◆ 適宜ビル等の指定を追加※指定済100件(令和4年度末時点)	○	ビルの追加指定はなかったが、現状維持ができたため○とした。津波により、逃げ遅れた地域住民等が、緊急かつ一時的に安全を確保するためにビルの指定を拡充し、充実を図りたい。
	防災室	地域住民や市内に滞在する方が	誰	津波避難ビル等を活用し、津波被害から人命を守る	◇ 利用者の意見(安心感、満足度等)	○	
049-2	災害医療体制整備事業	大規模災害発生時の医療救護所開設に備えた医薬品等の備蓄	効	応急処置等の適切な医療行為を受けることができる	◆ 適切な医薬品等の備蓄の確保	◎	備蓄中の医薬品等について、使用期限を迎える前に新たな物品への更新を行った。災害時における医薬品等の供給体制を維持するため、事業を継続する。
	地域医療推進室	医療救護所での受入れ体制が確保される	誰	大規模災害時に負傷した市民	◇ 医薬品等の備蓄・更新	◎	
049-3	届出制度	災害リスクの高い区域以外への都市機能及び居住の誘導を図るための届出制度	効	届出制度を活用し、災害リスクの高い区域以外への都市機能及び居住の誘導を図る	◆ 令和9年度居住誘導区域内の人口密度44人/ha	○	実施評価、事業評価については届出制度の活用により事業者、市民への計画の周知が図られ、令和9年度の目標に対しての一定の水準は満たされている(人口密度44.1人/ha、都市機能誘導区域内の誘導施設充足)と考えられるため、左記の評価とした。今後の方向性については令和7年度～令和9年度に計画の見直しを予定しているため、左記の方向性とした。
	都市政策課	事業者、市民	誰	意識の醸成を図る	◇ 行きたい場所が集約された利便性の高い拠点づくり、近距離圏で安心して生活ができる魅力的な居住づくり、主要な公共交通ネットワークの維持	○	
049-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

施策の内容評価シート(令和4年度分)

049-5	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
049-6	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
049-7	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
049-8	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
049-9	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	A
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	A	A					
今後の方向性	①	①	①	①	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

